

(20060403)

博報堂 2006 年度入社式

博報堂は4月3日(月)午前10時、東京都港区芝浦の本社に新卒採用者95名を迎え、成田純治社長以下、在京の全役員および部門長が出席して、2006年度入社式を行いました。新入社員が一人一人紹介されたあと、成田社長が歓迎と激励の言葉を送り、式を終了いたしました。

成田社長の挨拶の趣旨は以下の通りです。

本日、95名の無限の可能性を持った皆さんを、新しい仲間として迎えることを、会社を代表して、心より、歓迎します。

日本経済は長く続いた不況をいよいよ脱し、企業が新しい時代を先駆けるチャレンジを大きく前に進めるときがやってきました。

こうした時代の変化は得意先企業や社会を、我々広告会社が活性化させるという役割をより大きく広げるチャンスであると言い換えることができると考えます。

広告と密接な関係にあるメディア環境も大きく変化をしています。特にi-メディア領域は大きく広告費を伸ばし、放送と通信の融合といった話題が世を賑わせており、我々にとっても大きなテーマとなっています。既存のマスメディアのみならず、i-メディアや交通メディア、イベント、店頭、口コミなど、生活者と情報とのタッチポイントはますます多様化し、変化を続けています。こうした変化も、マスメディアを含めたメディア全体が新たに進化を遂げるチャンスとして捉えることができると考えています。

そのような状況の中で、これから博報堂で仕事を始める皆さんに、大切にしたいと考えていることがあります。それは「ハート（こころ）」です。

博報堂はビジネスという厳しいフィールドにおいて日々熾烈な競争をしています。広告の仕事は、パートナーである得意先のハートを、媒体社のハートを、そして多くの生活者のハートを動かしてこそ成り立つものなのです。それはどんなにIT技術が発展してコミュニケーションの形が変化しようとも、巨大なマネーパワーが一時的に世の中を揺るがすことがあったとしても、人間が人間として存在している限り変わることはないものです。

みなさんには、「どうやってあの人を喜ばせてあげよう」「どうしたら楽しんでもらえるだろう」というように想像力を働かせながら、自らを取り巻く全ての人の「ハート」を動

かす仕事を生み出して欲しいと考えています。

人の「ハート」を動かすのに、決まった方法などありません。皆さんの中に宿るクリエイティビティを磨き、皆さん自身でブレイクスルーをしていくのです。

私は社長に就任して以来、『これからの博報堂は「クリエイティブな博報堂」を目指す』と申し上げて参りました。皆さんがクリエイティブな人材になる為に、会社は助力を惜しみません。

具体的には、人材育成を目的とした「博報堂大学」を昨年スタートさせました。皆さんにはこの「博報堂大学」で、博報堂の社員として最低限必要な知識とスキルをまず身に付けてもらうこととなります。博報堂のノウハウを五年後、十年後の皆さんに期待をしてお渡ししますので、積極的に吸収し、一日も早くクリエイティブな人材に育てて頂きたいと思えます。

博報堂は、人が資産の会社です。一人一人の社員が生み出す価値が、博報堂の価値となります。

私たちは、博報堂というブランドを預けるに値する人材として、皆さんを選びました。そして皆さんも、自分の人生を賭けるに値する場として、博報堂を選んだはずです。そうであるからには、思う存分、その力を発揮して頂きたいと思えます。例え失敗したとしても、挑戦する人には寛容な会社です。失敗を恐れず、新しい仕事、難しい仕事、そして大きな仕事に挑戦されることを、心より期待しています。

以上

2006年4月3日 株式会社博報堂 広報室
